

国際武道大学研究紀要

第 33 号 (2017)

目 次

〈総 説〉

望月 好恵

第二言語動機づけ研究の動向と日本の英語学習者を対象とした研究成果について …… 1

〈研究報告〉

百武 憲一・井上 哲朗・大西 基也・岩井 美樹

大学野球選手の体力特性 …… 15

大西 基也・百武 憲一・岩井 美樹

高等学校硬式野球部の経営に関する研究

—甲子園優勝経験のある硬式野球部を対象として— …… 21

奥山 秀雄

バスケットボール授業の認知と習熟における縦断的研究

—授業改善および球技の競技経験が及ぼす影響— …… 29

多田 寿康・岩切 公治

剣道指導のフランス語 1 …… 41

黒田 敦子・多田 寿康・佐々木 克実

国際武道大学の英語、フランス語、スペイン語授業において学習させるべき

イディオムについて …… 49

〈資 料〉

井上 哲朗・谷口 有子・小西 由里子・見波 静

長期間運動を継続している高齢者における縦断的体力推移 …… 63

望月 拓実

中学校現代的なリズムのダンス授業における外部指導員導入の有効性 …… 67

笠原 政志

オーストラリア国立スポーツ科学研究所における在外研究員活動報告 …… 75

石井 兼輔・西田 孝宏・大迫 明伸・天野 安喜子・高橋 進・土居 陽治郎

『柔道審判ジェスチャーの手引 (動画集)』の作成 …… 83

廣瀬 恒平・西園 聡史・酒井 誠

女性と近代フットボール …… 89

〈講 座〉

大矢 稔・金木 悟

剣道における諸手左上段の指導法 …… 101

小関 康平

ドイツにおける権力秩序と国制史・憲法史の概観

—中世国家から現代憲法国家にいたるまで— …… 109

第二言語動機づけ研究の動向と 日本の英語学習者を対象とした研究成果について

望月好恵

要 旨

社会のグローバル化が急速に進展する中、2020年度から小学校5、6年生の英語が教科化されるなど、日本の英語教育は一つの変化の時期にある。第二言語習得研究においても、その研究成果を英語教育の現場に還元することへの関心が一層高まっている。第二言語習得研究で現在生産的な領域が、第二言語動機づけ研究である。本稿では、数十年の歴史がある第二言語動機づけ研究の変遷を概観し、近年の動機づけ研究の第一人者であるZoltán Dörnyeiの提唱するモデル、第二言語動機づけ自己システム(L2MSS)の理論的構成を示す。日本の学習者を対象とした研究で、L2MSSの枠組みにもとづいた研究も増加しており、世界的に評価されている研究も少なくない。その代表的なものを紹介し、日本の英語教育の展望に触れる。

キーワード：第二言語習得研究、動機づけ、L2動機づけ自己システム、英語教育、日本の学習者

大学野球選手の体力特性

百武憲一, 井上哲朗, 大西基也, 岩井美樹

要 旨

本研究では、大学野球部に所属している部員を対象として、体力測定を実施し、野球の競技力に必要な体力を明らかにすること、及び大学野球選手の体力標準値を示すことを目的とした。第66回全日本大学野球選手権大会で準優勝した国際武道大学野球部に所属する選手160名を対象として、リーグ戦においてベンチ入りしている選手をA群(投手7名, 野手25名), ベンチ入りしていない選手をB群(投手28名, 野手100名)として、それぞれ比較を行った。測定項目は、身長, 体重, 体脂肪率, 除脂肪体重, 握力, 背筋力, 垂直跳び, 立ち幅跳び, 反復横跳び, 30m走, 全身反応時間(最速, 平均値), バットスイング速度, ボール速度であった。その結果, 以下のことが明らかになった。

投手においてA群とB群で有意差がみられたのは, 年齢, 背筋力, 全身反応時間(最速), ボール速度であった。野手においてA群とB群で有意差がみられたのは, 年齢, 身長, 体脂肪率, 除脂肪体重, 握力, 背筋力, 垂直跳び, 立ち幅跳び, 30m走, バットスイング速度, ボール速度であった。

キーワード：野球, 大学生, 体力測定

高等学校硬式野球部の経営に関する研究 —甲子園優勝経験のある硬式野球部を対象として—

大西基也, 百武憲一, 岩井美樹

要 旨

本研究は、経営資源に着目し、過去10年間で春の甲子園および夏の甲子園のいずれかで優勝経験のある高等学校硬式野球部の経営の特徴を明らかにすることを目的として、アンケート調査を実施し、分析を行った結果、以下の特徴が示唆された。

春・夏の甲子園に複数回出場して経験を積むことで大会期間の戦略が確立されている。

充実した設備を駆使した練習やトレーニングを行っていることが技術能力の向上に繋がっている。

年間予算は、主に道具費で使用し、金銭支援と部費徴収をその他の諸経費に充てている。

競技成績を重要視し、野球を通じて人間形成を行っている。

全体練習で効率の良い意味のある練習を行い、自主練習では、短時間で集中して取り組ませている。

以上の本研究で示唆された特徴は、全国制覇を目標とした高等学校硬式野球部の経営方法における条件整備の一助となると考えられる。

キーワード：野球, 高等学校硬式野球部, 甲子園, 経営資源

バスケットボール授業の認知と習熟における縦断的研究 —授業改善および球技の競技経験が及ぼす影響—

奥山秀雄

要 旨

本研究では、国際武道大学の実技系授業「体育指導・評価法（バスケットボール）」の受講生106名から得られた、各授業課題における理解度と達成度による形成的評価を用いて、前年度との比較および受講生の球技経験の有無による比較ならびに考察を行い、2016年度における授業改善の成果および更なる検討課題の抽出を試みた。その結果、

- 1) 前年度との比較では、授業過程中盤以降の授業課題に対する理解度と授業過程前半の達成度において有意に高い評価が得られた。その要因の一つとして、前年度の研究結果を基に実施した授業改善の効果が示唆された。
- 2) 受講生の球技経験「あり」「なし」による比較では、授業の進行過程に伴う理解度およびその個人差の変化において、授業過程前半と授業過程中盤から後半の授業課題に対する球技経験の有無による違いが明らかになった。一方、達成度では、すべての授業課題において球技経験「あり」の評価が高く示された。さらに、授業過程中盤から後半における「集団技能」の習熟の程度を高めるためには、特に、球技経験「なし」における達成度を高め、個人差のバラツキを改善することの必要性が示唆された。
- 3) 授業過程中盤から後半における達成度の低下傾向および授業過程中盤から後半に向けた理解度と達成度の相関関係の低下から、「集団的技能」における授業課題の達成度および個人差の改善、ならびに球技経験「なし」の受講生に対する指導法において、今後さらなる授業改善の必要性が示唆された。

キーワード：達成度，個人差，球技

剣道指導のフランス語 1

多田寿康, 岩切公治

要 旨

本稿はフランス語を母国語とする人に対してフランス語で剣道を指導するためのマニュアル作成の第一歩である。将来的には本学あるいはより一般的に使える教材開発を視野に入れてもいる。そのため、本学で学ぶフランス語のレベルより少しだけ高いレベルのフランス語で書かれている。本稿では手始めに、剣道を習うに当たって初めに教わることになるであろう竹刀、剣道着・袴、礼法について、フランス語で指導するために必要になる表現を取り上げることとした。

キーワード：剣道, フランス語, 剣道着, 袴, 竹刀, 礼法

国際武道大学の英語，フランス語，スペイン語授業において 学習させるべきイディオムについて

黒田敦子（国際武道大学），多田寿康（国際武道大学），
佐々木克実（神田外語大学非常勤講師）

要 旨

本学の外国語教育の中でヨーロッパ系言語である英語，フランス語，スペイン語の授業において，本学の学生に向けた教材開発を視野に入れて，前回の語彙に続いて，今回はイディオムの面からのアプローチを試みた。

国際武道大学はコミュニケーションツールとして会話重視の授業を行っている。本学の英語，フランス語，スペイン語授業において学習させるべきイディオムについて，検定試験などに代表されるレベル別の単熟語集を考慮しながら，本学の学生が学べる難易度や量を考慮し，自然な基礎会話の中からイディオムを学習できるようにその選択を試みた。

ここに挙げたリストは必ずしも固定的なものではなく，さらに良いものにするべく今後も常に見直しが必要であると考えます。

キーワード：国際武道大学，英語，フランス語，スペイン語，語彙，表現，イディオム，体育，
武道，スポーツ

長期間運動を継続している高齢者における縦断的体力推移

井上哲朗 (国際武道大学), 谷口有子 (京都学園大学),
小西由里子 (国際武道大学), 見波 静 (社会福祉法人よしだ福祉会)

要 旨

本研究では、長期間運動を継続している高齢者1名を対象として、15年間の体力の変化を検討し、貴重な資料を得ることを目的とした。その結果、長期間運動を継続している高齢者1名の体力の変化をみてみると、運動継続により体力が維持されており、加齢が進んでも体力の低下が少ないことがわかった。また、文部科学省の新体力テストは79歳までを対象と対象としているため、79歳までの体力データは存在するが、80歳以上の体力データは示されていないことから、今回、長期間運動を継続している80歳以上の高齢者1名の体力データを得られたことは、大変貴重な資料であると考えられる。

キーワード：高齢者，体力測定，長期運動継続

中学校現代的なリズムのダンス授業における 外部指導員導入の有効性

望月拓実

要 旨

本研究の目的は、中学校体育における現代的なリズムのダンス授業への外部指導員導入の有効性を検証することである。はじめに、「外部指導員」と「創造性」の観点から分類した3つのクラスに対し、現代的なリズムのダンス授業評価指標に基づくアンケート調査を行った。続いて、得られたデータに対して確認因子分析、一元配置分散分析、多重比較を行った。

確認的因子分析の結果、「踊る」「創る」「観る」「関わる」「楽しさ」の5因子が抽出された。一元配置分散分析及び多重比較を行った結果、外部指導員を導入し創造性を担保した学校においてすべての授業評価指標が有意に高い値を示した。このことから、現代的なリズムのダンス授業に外部指導員を導入する有効性が示唆された。また、創造性の有無と外部指導員導入の有無による影響もみられた。創造性の低い授業を実施した場合、「観る」因子が低くなる可能性が示唆された。そして、外部指導員を導入し創造性の高い授業を行った場合、「創る」因子が低くなる可能性が示唆された。

キーワード：現代的なリズムのダンス、外部指導員、中学校体育

オーストラリア国立スポーツ科学研究所における 在外研究員活動報告

笠原政志

要 旨

オーストラリア国立スポーツ科学研究所（以下 AIS）にて客員研究員として1年間在籍した中で経験したアスリートサポートならびにオーストラリア在住中の経験から学ぶべき事例について報告する。著者は AIS にて生理学部門とコンバットスポーツ部門に所属し、生理学部門では柔道選手における疲労回復を目的としたリカバリー研究を主担当で実施し、コンバットスポーツ部門では主にオーストラリア柔道チームに対して測定評価に基づくコンディショニングサポートを行った。現場に還元できることであればチャレンジしてみるという AIS の考え方、良いものだと感じることは前向きに捉えて進めていくことを容認する競技団体の協力的な姿勢が AIS からの貴重な情報発信に繋がっていることをわれわれも学ぶべきことである。

また、海外1年間滞在することで、日本人のストロングポイントは、こだわり、気配り、礼儀正しさ、レジリエンスであり、ウィークポイントは表現力（語学力含む）だと感じる。このストロングポイントは本学での学びを通して養われるものであり、経済産業省が打ち出している社会人基礎力にも通ずると考えられる。

キーワード：アスリートサポート、スポーツ科学、オーストラリア

『柔道審判ジェスチャーの手引(動画集)』の作成

石井兼輔(国際武道大学), 西田孝宏(公益財団法人全日本柔道連盟審判委員会),
大迫明伸(公益財団法人全日本柔道連盟審判委員会),
天野安喜子(公益財団法人全日本柔道連盟審判委員会),
高橋 進(公益財団法人全日本柔道連盟審判委員会), 土居陽治郎(国際武道大学)

要 旨

国際柔道連盟(IJF)における審判のジェスチャーについては、全てが決められたものではなく、IJF審判委員会においても審判ジェスチャーの統一化を試みてはいるものの、まだ実現できていない。そこで全日本柔道連盟審判委員会としては、国内における審判ジェスチャーの統一化を進める意味で、審判ジェスチャーの体系分類化を行い、ジェスチャー動画と判定内容や注意事項を閲覧できるような環境づくりに着手した。いくつかの方法の中で、昨今のIT機器利用機会の一般化から、動画確認が容易となるWeb形式での開発を試みた。この方法であれば、PC機器だけでなく、スマートフォン等のモバイル機器との相性も良好となるため、多くの柔道審判にとって“いつでも、どこでも”閲覧できるであろう。

キーワード：柔道審判, ジェスチャー, 動画, Web形式, HTML言語

女性と近代フットボール

廣瀬恒平, 西園聡史, 酒井 誠

要 旨

近代フットボールには、サッカー、ラグビー、ラグビーリーグ、アメリカンフットボール、オーストラリアンフットボール、ゲーリックフットボール、カナディアンフットボールの7種がある。約40年前、女性のフットボールはあまり普及していなかった。

この度、筆者らは、女子のフットボールの普及について統括組織、国際試合、日本での普及の3点から調査した。

サッカーは2015年の7回目のワールドカップ、ラグビーは2017年の8回目、ラグビーリーグは2013年の4回目、アメリカンフットボールは2015年の5回目のワールドカップを開催している。オーストラリアンフットボールも2014年にインターナショナルカップ（3年に一度）を開催している。ゲーリックフットボールとカナディアンフットボールの世界規模の大会はまだ開かれていない。しかし、40年前と比較すると、現在は非常に多くの女性たちが近代フットボールをプレーしている。

日本では、サッカー、ラグビー（ラグビー・ユニオン）、アメリカンフットボールをプレーする女性が多い。ゲーリックフットボールとオーストラリアンフットボールを楽しむ女性は少数存在するが、ラグビーリーグフットボールとカナディアンフットボールをプレーする女性はいない。

キーワード：女性、近代フットボール、サッカー、ラグビー、ラグビーリーグ、
アメリカンフットボール、オーストラリアンフットボール、
ゲーリックフットボール、カナディアンフットボール

剣道における諸手左上段の指導法

大矢 稔 (国際武道大学), 金木 悟 (東海大学)

要 旨

現在, 上段をとる剣道人士は数少なく, その様態は多種多様, 多岐にわたっている。こうしたこと
の背景には, 上段を指導法の立場から考察した報告がなかったことや, 上段に関する指導法が整理
されてこなかったことなどが考えられる。そして, 外国の剣道人士にあっては, 上段を習練する
拠りどころがないため, 上段に関する指導法の提示が望まれているところである。

そこで, 指導法の立場から, 大正期から現代に至るまでの先人が書き遺した上段に関する指導書
合計40編の記述を根拠にして検討を行った。上段に関する指導書の記述の範囲と質量はさまざま
であったことから, 上段の要件を〔1. 上段の構えの性質, 技術的特性, 2. 中段の構えから上段
の構えのとり方, 3. 上段の構え方, 4. 攻め→正面打ち, 5. 攻め→右小手打ち, 6. 正面の打ち
方, 7. 右小手の打ち方, 8. 残心〕の項目で構成した。この「上段の要件」1~8に対応した記
述内容を精査・吟味し, 集約した事項を「上段の基本形」として示した。

キーワード：剣道, 諸手左上段, 上段技, 指導法

ドイツにおける権力秩序と国制史・憲法史の概観 —中世国家から現代憲法国家にいたるまで—

小関康平

要 旨

本稿は、中世から現代ドイツにいたるまでのドイツ国制史・憲法史を簡潔に記述することを目的としている。国家の発展段階は、一般に、以下に示す4段階に区分することができると思われる。この段階に従って、本稿の論述は展開される。

第一に、中世国家の段階である。その特徴は、教皇と皇帝との緊張関係あるいは二元的権力秩序に求めることができる。また、公権観念の未成熟性という点も、中世世界の特徴の一つに数えられるだろう。

第二に、近世（近代初期）主権国家の段階である。第一段階と比較したときのこの段階の国家の特徴は、中央集権化された君主の権力にある。この君主の権力は、絶対君主制として表出することになる。

第三に、近代憲法国家の段階である。この段階にいたると、国家権力は、成典憲法によって規律されることになる。さらに、自由権を中心とした基本権が保障されるようになる。

第四に、現代憲法国家の段階である。これは20世紀以降の国家の段階である。この段階にいたると、自由権のみならず、社会権もまた保障されるにいたる。また、ドイツでは共和政が樹立されることになる。

キーワード：ドイツ憲法史，フェーデ，ラントフリーデ令，教皇と皇帝，神聖ローマ帝国，
主権国家，フランクフルト憲法（パウロ教会憲法），ビスマルク憲法，
ヴァイマル憲法，ドイツ基本法